

比喩理解における文脈情報利用の過程に関する予備的検討 Pilot Study of Contextual Information in Metaphor Comprehension

平 知宏
Tomohiro Taira

大阪市立大学
Osaka City University
cogpsy.t.taira@gmail.com

Abstract

This study examines the processing of metaphor comprehension, which is affected not only by the factor of metaphor itself but also the contextual information of metaphor. My survey study reveals that the process of metaphor comprehension includes the reference process of contextual information, and that the reference process can be affected by the factor of metaphor itself: the conventionality of metaphor vehicle can weaken the chance of reference process in metaphor comprehension.

Keywords — metaphor comprehension, context, text reading

1. はじめに

本研究では、ある事物を別の事物でたとえる表現である比喩文の理解過程について、比喩文そのものの要因と、比喩文が含まれる文脈とが比喩理解に与える影響に注目しつつ、両者の要因の関係性について検討する。

比喩文の理解過程には、様々な要因が関与している。「AはB(のよう)だ」形式の名詞比喩文であれば、文を構成する主題(A:たとえられる語)や喩辞(B:たとえる語)が持つ意味の情報や、語の関係性に関わる要因や、文脈などのその文を取り巻く外的な要因が関与すると考えられる。特にいくつかの先行研究では、比喩的な意味を表すのに喩辞が慣習的に使用されているものであるかどうかや[1]、主題が喩辞によって適切にたとえられているか[2]が、比喩文そのものの理解の成立しやすさに影響すると考えられている。

一方で、比喩文の理解は、上記に指摘したような、比喩文そのものの要因に限らず、比喩文を内包する文脈などの、比喩文の外部情報の関与についても初期の研究から指摘されている[3]。これ

は、比喩に対する“字義通り”の定義が、文脈を含む他の外部情報や語等との関連づけなしに意味が通ることを示しており[4]、対する比喩文がそれら抜きには成立しないことが前提となっている。こうした比喩文と文脈との関係性を示した研究の中には、比喩文の理解過程そのものが、それを内包する文脈情報の処理と一体であり、その過程の中で文脈情報の処理を深めていることを示唆するものもある[5]。

一方で、こうした比喩文そのものの要因と、文脈などの外部情報の要因は、決して独立するものではない。例えば、比喩文そのものの要因が、比喩文の理解を成立させるような状況においては、文脈による比喩理解の成立を必要としないことも考えられるだろう。実際に、比喩文そのものの要因が、比喩文を含んだ文章の読解時間などに影響を与えうるなどの知見もある[6]。また、従来の文脈などの外部情報を扱った比喩理解研究においては、比喩文と文脈との関係性を検討しつつも、比喩文の理解過程に文脈が関与していることを直接的に示しているわけではない。これらを踏まえて、本研究では比喩理解過程における比喩文そのものの要因と文脈の関係、および文脈に対する比喩理解過程の関与の在り方について、予備的な検討を行うことを目的とする。

2. 方法

概要・参加者 調査は、Web調査システム LimeSurvey を用いて行われた。調査には、日本語を母語とする大学生 139 名（男性 51 名、女性 88 名、平均年齢 19.0 歳）が参加した。

材料 文内に含まれる一部の名詞が、字義通りに

も比喩的にも解釈できる日本語のターゲット文 24 文が用意された。ターゲット文に含まれる一部の名詞については、特定の意味との関連性の強さが把握できるものであった（先行研究[7]を参考に作成）。また各ターゲット文（例：彼女の目の前にいたのはサメだった）に対して、字義通りの意味に誘導するような文章（例：彼女は水族館にいて、展示されている海の生き物を見ていた）と、比喩的な意味に誘導するような文章（例：彼女は友人と水族館にいたが、彼女の友人が意図せず迷惑をかけてきた知らない人に、しつこく慰謝料を要求していた）の 2 種類が用意された。誘導文章は、3 文で構成されたもので、それぞれターゲット文の前に置かれ、両者は自然な日本語の文章としてつながるものであった。

手続き 調査参加者は、誘導文章とターゲット文の組み合わせから、ターゲット文がどういう意味を表しているのかを、4 つの選択肢のうちから 1 つを選ぶよう求められた。この時調査参加者はターゲット 24 文のうち半数を字義通り誘導文章で、残り半数を比喩誘導文章で読むこととなった。4 つの選択肢は、ターゲット文内の名詞を字義どおりに解釈したもの（例：彼女は泳いでいるサメを見た）、ターゲット文内の名詞を比喩的に解釈したもの（例：彼女は、とても貪欲な友人の振る舞いを見た）、ターゲット文内の名詞と関係するが誘導文それ自体とは無関係な記述で構成されたもの（例：彼女は、上手に泳いでいるものを見た）、ターゲット文や誘導文とは無関係な記述で構成されたもの（例：彼女は、友人たちと、ダイビングへ行った）の 4 種類であった。また調査参加者は、選択肢を選ぶ際に、その判断の根拠を、誘導文章およびターゲット文内の該当する文や単語から指摘し記述するよう求められた。ただし、根拠となる文や単語が存在しない場合は、記述無しでも可とした。

3. 結果

結果の処理 誘導文章ごとに 4 種の選択肢のうちいずれかが選ばれる傾向にあるかを、選択率から

検討した。その上で、各選択肢の選択とともに、その判断根拠として文脈内の文・語をどの程度選んでいたかを検討した。

選択肢の選択率 字義通り誘導文章における字義通り解釈選択肢の選択率は、平均 79.4%、比喩誘導文章における比喩解釈選択肢の選択率は、平均 88.2%となった（表 1）。このことから、作成した同一文に対し、ある程度の精度で誘導が可能となっていることが示された。

表 1 誘導文に対する選択肢の選択率

字義通り誘導文章			
字義	比喩	関係	無関係
79.4%	11.0%	7.5%	2.1%
比喩誘導文章			
字義	比喩	関係	無関係
7.3%	88.2%	3.1%	1.4%

$N = 139$

判断根拠の選択 上記結果をもとに、材料文と誘導文のペアのうち、字義通り・比喩誘導文それぞれに対し、選択率が 7 割に満たなかった 5 文を以下の分析から除外した。誘導文章とそれに対応する選択肢ごとに、判断根拠として誘導文章およびターゲット文内の文・単語を指摘したかどうかの割合（文脈指摘率）を検討したところ、字義通り誘導文章における字義通り解釈の選択肢が選ばれる際には 26.7%、比喩誘導文章における比喩解釈選択肢が選ばれる際には 44.1%となった（ $t_{participant}(138) = 3.90$; $t_{item}(18) = 6.04$, $ps < .001$ ）。このことから、ターゲット文に対して比喩的な解釈を行う際には、字義通り解釈を行うときよりも、文脈内の情報を判断根拠とすることがわかった。

またターゲット 24 文に対し、比喩的に解釈可能な名詞の比喩的な意味での慣習性（データ元は先行研究[7]）と、比喩誘導文章における文脈指摘率との関係性を検討したところ、両者の間に負の相関が見られた（図 1: $r(24) = -.23$ ）。このことから、比喩的な意味の使用頻度が高いほど、文

脈を判断根拠とする傾向は弱くなっていることがわかった。

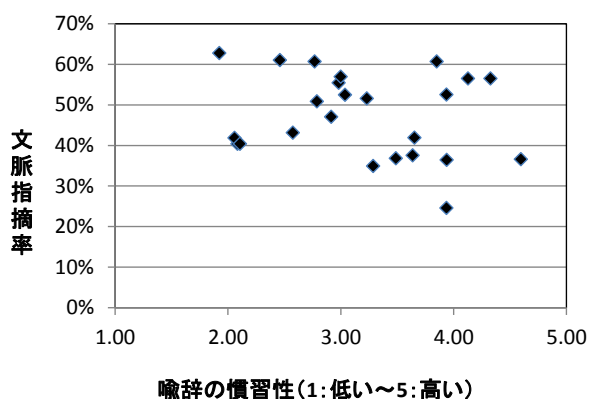


図1 比喩誘導における文脈指摘率と
比喩慣習性の関係

5. 考察

以上の結果から次の2点がわかった。(1)比喩的な理解を誘導される状況においては、字義通りの理解を誘導される状況よりも、同一の文であっても、文を内包している文脈を参照しやすくなることがわかった。また、(2)(1)のような傾向は、名詞比喩文を構成する語の慣習性に影響を受け、比喩的な意味で使用されやすい語が比喩文に用いられているほど、文脈の参照は弱くなることが示された。これらのことから、従来の研究で指摘されていたような、比喩そのものの要因や文脈などの外部情報が、比喩理解に関わるという主張は支持されることとなる。加えて、例えば比喩の慣習性などが、比喩理解を成立させるような状況においては、もう片方の要因である文脈の参照がされなくなるなど2種類の要因が、相互に関連しあうことが見て取れる。

一方で、本研究では、比喩文そのものの要因として、比喩の慣習性をとり挙げているが、比喩理解に関わるような比喩そのものの要因としては、主題と比喩の組み合わせに対する評価である適切性などの要因も存在し、これまでの研究では、慣習性よりも適切性の要因が、比喩理解に直接的に影響することなどが指摘されている[2]。一方で、本研究においては、比喩誘導時における文脈指摘率と適切性との相関は見られなかった ($r(24) =$

-0.14)。このことから、比喩理解の成立に伴う文脈の利用は、比喩文を構成する主題と比喩の間の関係性よりは、比喩としての利用が想定されている比喩のみの性質が反映されていることが示唆される。ただしこうした問題は、文脈の参照と言う問題を、文脈の中の文単位で考えるか、単語レベルとしてとらえるかで異なってくるだろう。本研究については、今後参照対象となる情報の単位と、参照する主体である理解者内の要因なども併せて、検討を深めていきたい。

参考文献

- [1] Bowdle, B., & Gentner, D. (2005). "The Career of Metaphor", *Psychological Review*, Vol.112, No.1, pp.193-216.
- [2] Jones, L., & Estes, Z. (2006). "Roosters, robins, and alarm clocks: Aptness and conventionality in metaphor comprehension", *Journal of Memory and Language*, Vol.55, No.1, pp.18-32.
- [3] Keysar, B. (1989). "On the functional equivalence of literal and metaphorical interpretation in discourse", *Journal of Memory and Language*, Vol.28, No.4, pp.375-385.
- [4] Gibbs, R. W., Buchalter, D. L., Moise, J. F., & Farrar IV, W. T. (1993). "Literal meaning and figurative language", *Discourse Process*, Vol.16, No.4, pp.387-403.
- [5] Taira, T. & Kusumi, T. (submitted). "Effect of metaphor comprehension on the rereading processing".
- [6] 平知宏. (2007). "比喩の親しみやすさが文章読解過程に及ぼす影響", *メタファー研究の最前線* (楠見孝編). pp.369-384.
- [7] 平知宏・楠見孝. (2008). "比喩文の適切性評価に関わる主題と比喩の認知", *日本認知言語学会第9回大会発表論文集*, p.235.